

民泊の思い出

総務班長 金藤哲夫

48年ぶりの山口国体！！当時、私は高校生で国体を遠巻きに見ていました。この度は『民泊』ということで直接的に選手を受け入れる立場です。

山形県チームを担当することになり、何せ、初めてのことで大忙し『なんでも強い』『地元、山口と一回戦でやるんじゃ』、『どねえするかいのお』、『そりゃ何が何でも山形県でいかにゃ』。やっと一つの声になりホッとしました。

毎日を朝と夜の2班にわけて二人ずつ、当番制にして何があっても対応できるようにしました。幸い、メンバーの積極的な協力によって選手の朝食前から待機、夜も選手が民泊家庭に帰って行くまで付き合いました。A班受け持ちの静岡県チームと優勝戦で合う約束でしたが、我が山形県チームは2回戦で惜しくも東京のチームに敗れてしまいました。

A班、B班問わず歓迎班の全面的なバックアップのもとで盛大な送別会が催され悔しい思いとは裏腹に楽しい時間を共に過ごすことができました。

たった4日間、という僅かな時でしたが、それぞれ民泊家庭のあたたかい『心からのおもてなし』のお蔭で、お互いの絆を強く結ぶ出会いができたこと強く確信しています。

来年2月に四国で予定されている実業団のバスケットボールの試合に是非、ツアーを組んで応援に行こう！！と声が上がっているほどの熱いご縁ができたことを心からとても喜んでいます。

感謝！ 感謝！です。



民泊の思い出

美化班長 濱野秀明

300以上のプランターに花を育てることは初めての経験であり、大会当日までにうまく咲いてくれるのか大変不安でした。今年は酷暑の日が続き、水遣りにも大変気を使い、枯れずに花が咲いたときは一安心しました。また、美化班の活動に場所を提供してくださった西町の中村さん、作業をお手伝いいただいたソフト同好会、宮本自治会の皆様に大変感謝いたします。大会当日には、花岡の町並みに3色の花が咲き誇り、選手団の心を少しは癒したのだと思います。ただ、肥料の量が少なかったためか花の寿命がやや早かった気がしました。



民泊の思い出

調理班長 菊本凉子

おいでませ！山口国体、花岡民泊協力会Bは9月11日の抽選会で、山形県成年女子チームを引き受けることになりました。私たち調理班は婦人会員16名を2班に分け、一日交替で朝、夕の食事作りを担当しました。

朝5時に公民館に集まり、身だしなみを整え7時の朝食に向けて調理にかかります。

夕食は午後4時に集まり、6時30分に間に合うよう、皆で一生懸命「山口の味」のおいしい食事作りに頑張りました。花岡地区はもう1チーム、静岡県を民泊協力会Aが引き受けていて、調理はAとBが一緒に行ってきました。食材購入はA班が一括して調達してくださって、とても助かりました。

ここに至るには、1年前より市による「下松市民泊協力会調理班衛生研修会」や「調理班長会議」が何回か行われ、食中毒を絶対起こしてはいけないと、衛生面をしっかりと勉強してきました。調理実習会も3回行い、マスク、ヘアキャップ、調理場での履物、また、炊事用手袋に至っては、肉、魚、野菜とそれぞれ取り替えて使うよう厳しく指導されたことを思い出します。

4泊5日の食事作りでしたが、お別れ会で山形県の選手の方より「毎日おいしい食事をありがとう！花岡の皆さんによくしていただいて、また来たいです」と言われ、山口のおもてなしの気持ちを伝えることができ、本当によかったです。

調理にお手伝いいただいた婦人会の皆様、また、民泊に係わられた多くの皆様、本当にお疲れ様でした。

民泊の思い出

歓迎班長 藤田典敬

花岡公民館を拠点施設として花岡民泊協力会A、Bが立ち上がったので、花岡民生児童委員協議会と花岡地区社会福祉協議会の計24名で構成されている歓迎班A及びBは、協同して活動することにしました。

歓迎班スローガンを「50年に一度の大イベント、どうせやるなら国体を楽しみ、地域全体で歓迎しよう!」とし、歓迎旗など装飾範囲担当を「駐車場の周辺」「ロビー」「食事会場」「歓迎会会場」「応援」「装飾グッズ作成」の6チーム編成に分割して活動しました。

各チームは「現場でディスカッション」を合言葉に、大工仕事ができる人は歓迎アーチの作製、書道が得意な人は歓迎紙作成と、それぞれの特技を生かした活動をしてきました。装飾グッズ作成にあたってはスローガンどおりに、保育園の園児さん、花岡小学校の児童のみなさん、末武中学校の絵画部のみなさん、公民館講座メンバーの有志の方々を巻き込んで進めてきました。

歓迎会では花岡小学校吹奏楽部、下松星太鼓、そして送別会では地区民話の紙芝居、と地域を挙げての歓送迎は大成功だったと自画自賛しております。歓迎班のスローガンどおり、大馬鹿??になって活動した人も複数いましたが、せんなかったこと、困ったことは全くなく、本当に楽しくやることができました。

そして、選手のみなさんがバスで花岡を離れる時、すべての選手が「この一週間の親切は絶対忘れません!」「花岡に嫁に来ます!!」なんて言って、涙を流して喜んでくれたことは、私たちにとっても一生の思い出(宝もの)になるでしょう。





今回の山口国体で私は初めて民泊を体験しました。最初は不安もあったのですが、民泊地区の方々より強烈な歓迎をうけ、一瞬のうちに不安はなくなりました。民泊家庭の方は勿論ですが、花岡地区の皆様にはとても親切にさせていただき、私達のことを最優先に考えて下さっているその優しさがうれしかったです。

短い間でしたが、実の娘、家族のように接していただき、過ごした時間は、とても温かく素敵な思い出となりました。初めての民泊が花岡地区で良かったです。

本当にありがとうございました。

山形県バスケットボール成年女子

赤川 愛

